

林業相談

生垣の維持管理

問 昨年の夏、緑化樹見本園を見学した際、各種の樹種で作った生垣の素晴らしさに感嘆しながら帰りました。早速、カツラの苗木を買い求め、今春、生垣を作りました。この維持管理技術（刈込み、施肥、冬囲い）について、お知らせ下さい。（沼田町 S 生）

答 生垣の形状 生垣は自然石やブロックを積み上げて盛土したところに苗木を植えるものと、直接、庭の地面に植えるものとに分けられます。照会によりますと、生垣は庭の平地（境界）に植えられたようですが、そのためには刈込みをおこない、生垣としての機能が発揮できる姿「高さ・160 cm、厚さ・60 cm」の寸法に育て整える必要があります。

刈込みの方法と時期 植栽した苗木の大きさによっても異なりますが、苗高50～60 cm（1回床替2年生）の苗木を用いた場合、カツラは植栽後2～3年で前述の寸法に達します。このため定植後は樹高生長を促し、幹を中心にして横枝を60 cmの幅に刈込むと同時に高さを160 cmに切り揃えます。このような作業を繰返すと、小枝が密生してきます。刈込みは年2回、7月上旬と8月下旬で、その方法は、高さ160 cm、幅60 cmの木枠（写真-1）を2枚作り、生垣の両側に仮設します。つぎに、木枠の側面に細い紐を3本張り、この紐から外にはみだした枝を刈込むようにすると作業が簡単で、しかも、きれいに仕上がります。

施肥 融雪（5月上旬）と同時に年1回、化成肥料を苗木1本当たり約100 g施します。方法は根元の両側を列状に浅くかき起し、この部分に肥料を散布して土とよくまぜます。6月以降の施肥は新しく伸びた枝の木化がおくれ、刈込んだ際、小枝が若干枯れることがありますので、手控えるべきでしょう。

冬囲い 苗木が小さいうちは、ネマガリダケやタルキなどを用いた支柱で十分ですが、生垣としての形が整ってきた場合、多雪地帯では枝折れや枝抜けなどの被害が発生します。このため、比較的安価に求められ、しかも丈夫なカラマツの間伐材を合掌型に組立て、側面に同じ丸太を2～3本架設（写真-2）しておく、雪害を完全に防ぐことができます。

このほかカツラの葉にはサビ病、褐斑病が発生しやすいので、6～8月にかけて、月1回程度、ダイセン水和剤などを散布します。

以上のような維持管理をおこなうと、いつもきれいな生垣を保つことができます。

（樹芸樹木科 斎藤 品）



写真-1 生垣の刈込み



写真-2 生垣の冬囲い 2